

# 頸動脈超音波検査所見基準表

改訂 2023年12月15日  
改訂 2026年4月1日

一般財団法人 日本健診財団

住所 東京都杉並区高井戸東2-3-14

頸動脈ドプラ用

部位①	
01	右
02	左
03	両

部位②	
01	総頸動脈
02	内頸動脈
03	外頸動脈
04	椎骨動脈
05	鎖骨下動脈
06	甲状腺
07	頸部

判定区分		
1	A	所見なし
2	B	軽度異常
3	C12	1年後
6	C6	半年後
7	E	要精検
9	F	治療中
8	D	要治療

所見名		備考
98	所見なし	判定区分A
01	IMC肥厚	
03	狭窄	
05	閉塞	
06	等輝度プラーク	
07	低輝度プラーク	
08	高輝度プラーク	
09	潰瘍型プラーク	
12	血管蛇行	
13	拡張	
14	萎縮	
15	奇形	

頸動脈(ドプラのみ使用)		備考
17	血流異常(血流左右差)	
24	その他(椎骨動脈逆流あり)	
24	その他(一部血流計測不良)	

甲状腺・その他		備考
04	石灰化	
20	腫瘍性病変	
22	甲状腺腫大	
23	甲状腺のう胞	
24	その他(びまん性甲状腺腫)	
19	リンパ節腫大	

10	描出不良	判定区分B
11	描出不能	判定区分B

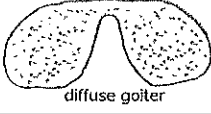
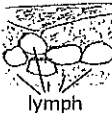
- ※ 判定区分Fは本人からの申し出があった場合に使用する。
- ※ CS (Bif) は総頸動脈に含める。
- ※ プラークは必ず分類する。
- ※ 24はその他コード(手入力コード)となります。  
コードは24を使用し、所見名を記入。()内の所見名以外は使用しないこと。
- ※ 左右で同一所見がある場合、判定区分が同じ場合は部位①03(両)を使用し  
違う場合は、左右それぞれの判定区分を記載する。
- ※ max-IMTの計測値は左右それぞれ最大の計測値(CCA・CS・ICAのいずれか)に○をする。  
★同じ値の場合・ICA→CCA→CSの順に選ぶ
- ※ 狭窄率はAREA(面積)法で測定し、複数個所ある場合は左右それぞれの最大値に○をする。
- ※ 流速の判定については、所見名のみ記入し判定区分は空欄とする。  
判定医に判定区分は決定してもらいます。

(頸動脈)超音波 所見基準表

頸動脈ドプラ用

	所見名	判定区分	所見基準	シェーマの書き方	所見の確認・記載項目																																	
					※『所見基準』チェック項目で該当する内容も必ず記入すること																																	
頸動脈 (頸動脈検査時の甲状腺所見含む)	IMC肥厚 01	E	2.5mm以上		ブランク定義に当てはまらない1.1mm (Bifは1.4mm)以上の肥厚をIMC肥厚とする。																																	
		C6	2.0mm~2.4mm																																			
		C12	1.4mm~1.9mm																																			
		C12	1.1mm~1.3mm (頸動脈洞に使用しない) ※頸動脈洞については1.4mm以上を肥厚とする																																			
	高輝度プラーク (Ia・Ib・IIb一部) 08	E	輝度分類 IIIa・IIIb	Plaqueの輝度分類 Homogeneous Heterogeneous 	1.1mm以上の限局した隆起性病変 (隆起と認知できる血管腔へのIMCの突出像。) 計測画面は基本は短軸で行う。プラークについてはプラーク分類を参照して記載。特に低エコー・潰瘍性のは必ず記載。高エコー(石灰化)のもので計測困難の場合、出来る範囲で計測しシェーマ・コメントの記載もすること。																																	
		E	可動性あり(flapも含む)																																			
		E	潰瘍形成																																			
		E	輝度分類			4.5mm以上																																
		C6				3.5mm~4.4mm																																
		C12	1.1mm~3.4mm																																			
	等輝度プラーク (IIa・IIIb一部) 06	E	IIa・IIb	3.5mm以上																																		
		C6		2.5mm~3.4mm																																		
		C12		1.1mm~2.4mm																																		
	低輝度プラーク (IIIa・IIIb一部) 07	E	IIa・IIb	3.5mm以上																																		
		C6		2.5mm~3.4mm																																		
	C12	1.1mm~2.4mm																																				
	潰瘍型プラーク 09		※輝度が混在しているプラークは、占めている輝度の割合でいずれかに分類して下さい。																																			
狭窄 3	E	狭窄率 50%以上		狭窄率40~50%以上の場合に径狭窄率(短軸もしくは長軸)で計測する。																																		
	C6	狭窄率 40~49%																																				
	C12	狭窄率 30~39%																																				
閉塞 5	F	治療中のもの																																				
	E	狭窄率 100%																																				
拡張 13	C12	CCA 9mm以上 ICA 7mm以上																																				
		蛇行が認められる場合																																				
血管蛇行 12	C12																																					
血流異常 17	E	狭窄や閉塞に伴うもの																																				
	B	軽度の血流左右差																																				
甲状腺のう胞 23	C12	10mm以上を所見とする		サイズ: __mm × __mm 境界: 内部エコー: 後方エコー:																																		
	E	最大径20.1mm以上場合 のう胞内に充実部分がある場合について 最大径10.1mm以上20mm以下のもの、以下の悪性所見のいずれかが認められるもの ・充実部の形状不整・微細高エコー多発・血流豊富 最大径5.1mm以上10mm以下のもの、以下の悪性所見が複数認められる場合 ・充実部の形状不整・微細高エコー多発・血流豊富 充実性病変の場合について 10.1mm以上20mm以下の場合、甲状腺結節(腫瘍)超音波診断基準の悪性所見が1項目でも当てはまる場合またはドプラ法で血流(貫通血管)を認める場合 腫瘍のサイズにかかわらず、以下の所見のあるもの ・明らかな腫瘍径増大が認められるもの ・甲状腺癌の手術既往があるもの ・周囲の浸潤が疑われるもの ・リンパ節転移が疑われるもの		サイズ: __mm × __mm <table border="1"> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">形状</th> <th colspan="2">境界</th> </tr> <tr> <th>明瞭性・性状</th> <th></th> </tr> <tr> <td>良性所見</td> <td>整</td> <td>明瞭平滑</td> <td></td> </tr> <tr> <td>悪性所見</td> <td>不整</td> <td>不明瞭粗雑</td> <td></td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">内部エコー</th> </tr> <tr> <th>エコーレベル</th> <th>均質性</th> </tr> <tr> <td>良性所見</td> <td>高~低</td> <td>均質</td> </tr> <tr> <td>悪性所見</td> <td>低</td> <td>不均質</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">微細高エコー</th> <th>境界部</th> </tr> <tr> <th>低エコー帯</th> </tr> <tr> <td>良性所見</td> <td>(-)</td> <td>整</td> </tr> <tr> <td>悪性所見</td> <td>多発</td> <td>不整/なし</td> </tr> </table>		形状	境界		明瞭性・性状		良性所見	整	明瞭平滑		悪性所見	不整	不明瞭粗雑			内部エコー		エコーレベル	均質性	良性所見	高~低	均質	悪性所見	低	不均質		微細高エコー	境界部	低エコー帯	良性所見	(-)	整	悪性所見	多発
	形状	境界																																				
		明瞭性・性状																																				
良性所見	整	明瞭平滑																																				
悪性所見	不整	不明瞭粗雑																																				
	内部エコー																																					
	エコーレベル	均質性																																				
良性所見	高~低	均質																																				
悪性所見	低	不均質																																				
	微細高エコー	境界部																																				
		低エコー帯																																				
良性所見	(-)	整																																				
悪性所見	多発	不整/なし																																				
甲状腺腫大 22	E	以下にいずれかに該当するもの ・峡部厚3mm以上 ※峡部厚の所見のみの場合、部位コードは便宜上、両葉を選択する ・片葉の厚さ20mm以上																																				
	C12	精査済のもの																																				
萎縮(甲状腺) 14	E	ほとんどみえないもの																																				
	C12	精査済のもの																																				

(頸動脈)超音波 所見基準表

頸動脈ドプラ用					
	所見名	判定区分	所見基準	シエーマの書き方	所見の確認・記載項目
					※『所見基準』チェック項目で該当する内容も必ず記入すること
	その他 (びまん性甲状腺腫)  24	E  C12	内部エコーの粗雑化・不均質化・エコーレベルの低下などを認めるもの  精査済のもの	thyroid  diffuse goiter	サイズ: 峡部の厚さ・両葉の厚さ 内部エコーの評価
	リンパ節腫大  19	E  C12	明らかにリンパ節の腫大を認めるもの ※総頸動脈周囲や気管周囲などのリンパ節  精査済のもの	 lymph	サイズ: __mm × __mm 形状: 円形・楕円形・扁平

※甲状腺他所見

摘除 999	B or F
-----------	-----------

※ 本人より治療中など申し出があった場合、対応する所見で判定「F」を使用する